

子宮(頸部)がん検診のすすめ

子宮頸がんの早期発見には、検診が非常に有効です

子宮頸がんは、子宮の入口にできるがんです。年間約 12,000 人(上皮内がんを含む)が子宮頸がんと診断されています。初期段階では、ほとんど自覚症状がありません。

検診で見つかるがんは、初期がんが多く、ほとんどが治ります。

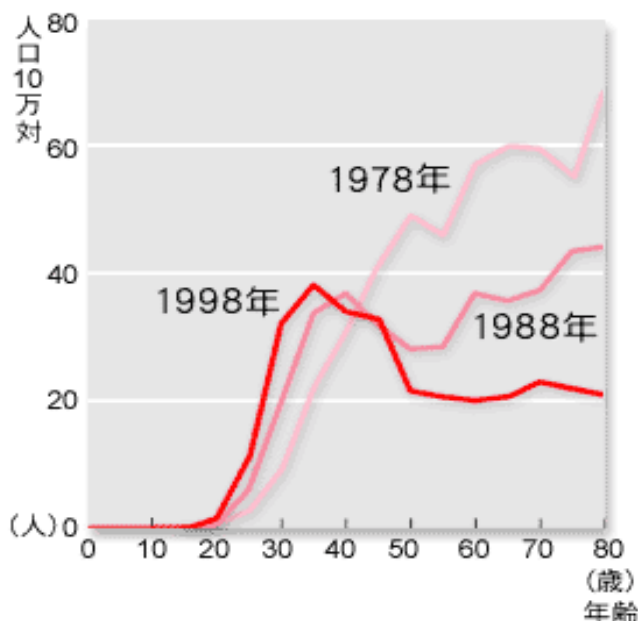
多くの先進国では、ほぼ例外なく子宮頸部細胞診による検診が行われています。欧米での受診率は高く、たとえばアメリカでは、18 歳以上の女性の 86% が過去 3 年以内に 1 回以上検診を受けています(2002 年)。一方、日本では過去 1 年以内に受けた女性は 15% 足らずにとどまっています。

子宮頸がんは、20 歳代の若年層では急激に増えています。これは、ヒトパピローマウイルス(HPV)の感染が関与しており、高齢になるほど多くなる他のがんと違って、性活動が活発な若い年代での感染の機会が増えているためと考えられます。そのため、厚生労働省は、2004 年から子宮頸がんの検診対象を 30 歳以上から 20 歳以上に広げました。

頸部の細胞診によってがん細胞をみつけます。

細胞診とは、子宮頸部の表面の細胞を一部とり、顕微鏡で調べる検査です。検診時の痛みは、ほとんどありません。受診者の約 1% の方が精密検査が必要となります。がんの発見率は約 0.07% です。精密検査を受診した方の中から約 7.3% の方ががんが発見されます(2003 年当協会データ)。最低でも 2 年に一度は検診を受けましょう。

頸がん(上皮内がんを含む)発生率の推移



『地域がん登録』研班(主任研究者:津熊秀明)による全国推計値(1998年)



お問い合わせ

石川県金沢市神野町東 115 番地
業務部 TEL (076) 249-7222



一般財団法人 石川県予防医学協会

ISO9001 認証取得・日本総合健診医学会優良総合健診施設
ISO27001(情報セキュリティマネジメントシステム)認証取得